

事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	水産課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	水産課長 藤澤 崇夫 (課長補佐兼漁場整備係長) (山下 正晶)	内線	4149 (4163)
--------------	-----	---------------------	--	----	----------------

事業種目	漁場整備開発	事業名	事業区間	総事業費	3億円
		増殖場造成事業	福良地区	内用地補償費	-
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
南あわじ市福良地先			H 2 5	H 2 5	H 2 7
事業目的			事業内容		
<p>3つの海峡を有する淡路島の周辺海域は、豊かな漁場を形成し多くの魚介類の回遊ルートとなっており、瀬戸内海東部の水産資源にとっての主産卵場、幼稚魚分布域となる重要な海域である。しかし浅海域の開発による藻場・干潟が減少により、漁場環境が悪化し海域の再生産力が低下している。</p> <p>当地区は、マダイなどの越冬・産卵場に近く、幼稚魚等の育成保護に適した藻場などを造成し漁場環境の改善を行うことで海域の生産力の向上を図る。</p>			<p>対象生物：カゴ、マル、マガレイ、マダイ、スズキ等</p> <p>事業量：20ha</p> <p>事業主体：兵庫県</p> <p>事業費内訳：国：1/2，県：1/2</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>本事業は、本県南淡路海域における水産資源の増大を図るための主要な事業（水産環境整備事業）として漁港漁場整備長期計画に位置づけられている。</p> <p>近年は、水産資源の状況悪化に加えて、魚価の低迷、燃油や資材の価格上昇等により漁業経営は厳しい状況にある。</p> <p>対象とする魚種は、底びき網、刺網、釣り等様々な漁業種類で漁獲され、地元地域はもとより京阪神地域を中心に供給されている当地区を代表する重要な魚種である。</p> <p>このため本事業では、これら資源の増大を目指し幼稚魚の育成にとって重要な浅場の環境を整備し、藻場や磯を創出することで水産資源の回復を図り漁業経営の安定化を目指す。</p>				
(2)有効性・効率性	<p>年間の漁業生産量は35トンの増産が見込まれ、水産物の増産期待量から算出した水産物の生産性向上（漁家所得の増加）と地域産業の活性化（流通量の増大による便益）の見込みから算定した費用便益比（B/C）は1.14であり、事業の有効性は高い。</p>				
(3)環境適合性	<p>増殖場造成で、海底環境の改善、藻場が造成されるなどによって、生息する生物の種類や量の増加が図られ、周辺海域の水産物の生息環境創造が期待される。</p>				
(4)優先性	<p>本事業は、ひょうご農林水産ビジョン2020で、「水産資源を支える漁場の整備」として位置づけられている。また、当地区の周辺には天然漁場や人工漁場が点在しており、これらの場所を相互につなぎ生産性向上が図れることから、水産資源の回復に寄与することが期待され、関係漁業者の期待が極めて大きい。</p>				

増殖場造成事業(南淡路海峡福良地区)

事業概要

1. 事業の目的

- ・水産生物の資源増大と漁業生産の増大と安定
- ・失われた海の浅場機能の回復(藻場や浅場の磯)

2. 事業の内容

実施地区: 兵庫県南あわじ市福良地先

実施年度: 平成25年度～平成27年度

総事業費: 3億円

施設規模: 約20ha

(自然石、コンクリート魚礁、鋼製礁)

増産期待量: 35トン

費用対効果: 1.14

期待される効果

藻場や浅場の磯の造成(写真はイメージ)



石材に繁茂する藻類

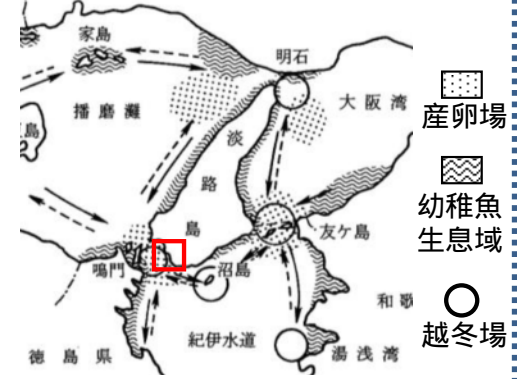


藻場を遊泳するメバル

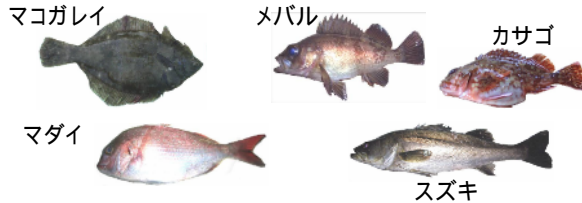
既存人工礁、天然礁を相互につなぐように造成し、生産性の向上を期待

- ・幼稚魚、未成魚の保護・育成による資源の増大

マダイの回遊経路



対象魚種: マコガレイ、メバル、カサゴ、マダイ、スズキ等



石材による磯の創出



構造物の内部に蟄集するメバル



構造物近くを遊泳するスズキ・イサキ

造成計画の基本的な考え方

- ・水深10m未満に設置(藻場造成に主眼)
- ・投石(自然石)と魚礁構造物を組み合わせて設置
- ・規模の違う磯を複雑に配置

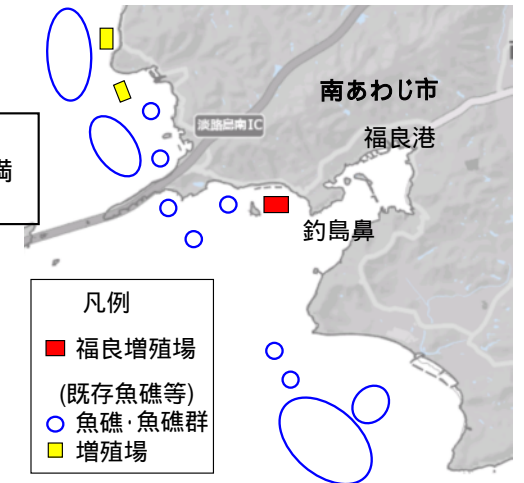
配置・魚礁のイメージ



造成箇所



環境条件:
水深10m未満
砂礫



工程表

	H25	H26	H27	備考
深浅測量				必要に応じて実施
環境生物調査				"
増殖場造成				

B / C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
漁場	漁獲量増大による便益 増殖場造成海域で成育した対象魚種の漁獲量・金額	増殖場の単位面積当たりの対象魚種の生産量 × 造成規模
	流通量の増大による便益 流通過程における付加価値効果	(消費地価格 - 産地市場価格) × 流通量

費用便益比(B / C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
漁場	福良地区増殖場造成事業	漁獲増による便益	269	漁獲量の増 = 流通量の増 35トン(年間)	275	275	0	1.14
		流通量増による便益	44					
		計 (総便益額)	313					

総便益、総費用とも平成24年を基準年として現在価値化した額の分析対象期間中の合計。

社会的割引率は4%、分析対象期間は事業完了後30年。

端数処理により、計算上の不整合がある場合がある。